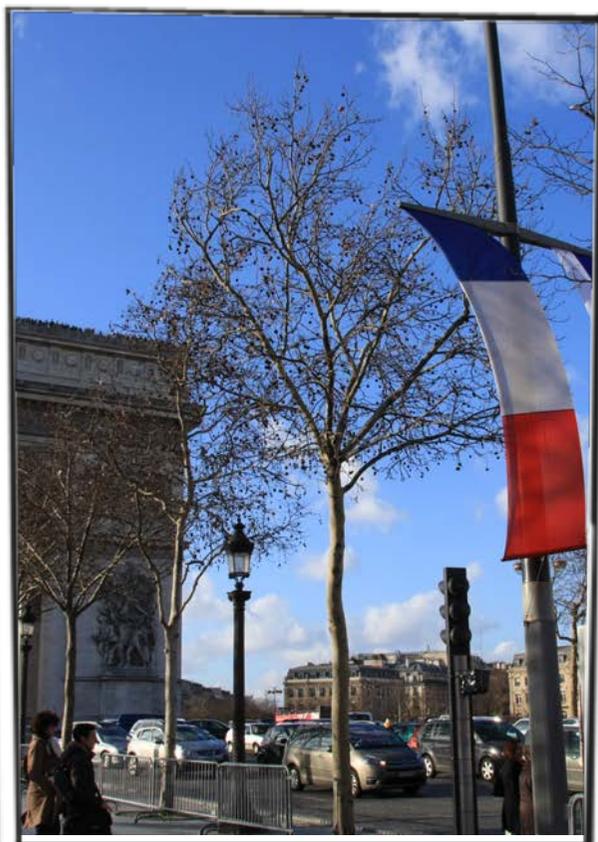


ONE HEART

Qu'est-ce que je peux faire pour l'avenir?

NEWSLETTER
UNESCO
ASSOCIATED
SCHOOL
& ESD

VOL. 08



ESD INTERNATIONAL EXCHANGE PROGRAM

vol. 08 ESD国際交流プログラム in France & Germany

L'ESSENTIEL EST INVISIBLE POUR LES YEUX

2013年11月にユネスコスクール高校生ESD作文コンテスト「持続可能な社会を目指して私にできること」が行われました。そのコンテストで本校3GAの笠原由希子さんが入選し、「第4回ESD国際交流プログラム」参加者として日本の代表生徒14名に選抜されました。プログラム参加者は3月23日～29日にドイツ・ハイデルベルクとフランス・パリへ派遣されました。現地ではユネスコスクールやユネスコ本部を訪れ、各校でのESD活動を発表し、現地の高校生たちと意見交換等を行いました。笠原さんは自身が携わってきたウシモツゴの飼育やフェアトレード活動を世界的な諸問題の中に位置づけ、英語でプレゼンテーションを行いました。

笠原さんは帰国後の5月12日に本校で、14日には中部大学で開催された「第5回中部大学ESD研究・活動発表会」において、プログラムの報告を行いました。中部大学での発表冒頭ではユネスコ本部で行った発表の要約を英語でプレゼンした後、プログラムを通して感じたことや考えたことを発表し、フロアからは数多くの質問が飛び交っていました。vol. 08では笠原さんが今回のプログラムや報告会で感じたことをインタビューしました。

aujourd'hui pour demain

- 今回ESD国際交流プログラムに参加しましたが、どのような想いで参加したのでしょうか。

中学校までは、ESDに関して全く知らなかったのですが、高校に入ってからフェアトレードや科学部での活動を通してESDに興味を持つようになりました。「持続可能性」という視点は、世界的に見ても大きな問題だと思います。そのため、世界でそのようなことを学び、今後も活動を続けていくにあたり、自分の見識を広げたいという想いがありました。

- 実際に現地の高校生と意見交換をしてみてどのようなことを感じましたか。

現地の高校生と活動について話をしましたが、あちらでは現実的な問題からアプローチするのが印象的でした。ESD活動にかかる資金面だとか。理想を追うだけでなく現実を受け入れたうえで活動にあたっていかなければ「持続可能な社会」の実現には至らないという考えを私も見習わなければならないと思いました。作文や発表の中で私は「地球は一つ、命はつながっている」ということを述べましたが、交流の中ではなかなか自分の意見をうまく伝えられない場面もありました。しかし、それでも想いはつながるということを実感しました。

- 今回の国際交流プログラムで最も印象に残っていることを教えてください。

クレームブリュレが美味しかったです。表面がパリッとして(笑)。現地の高校生たちと一緒に街をまわった時に、フランスの高校生もドイツの高校生も日本の文化・サブカルチャーに非常に興味を持っているということがわかり、嬉しかったです。フランスの高校では、図書室に日本のマンガがあって驚きました。

- ユネスコ本部での発表はどうでしたか。

本部で発表するとは思っていなかったのですごく緊張しました。国際会議を行うような部屋での発表で、あのようなところで発表させていただいて光栄でした。

発表の後にエンギダ事務次長を表敬訪問したのですが、そこで「さまざまな壁を超えて他国を真に理解するには『教育』が最も大切である」という言葉を聞き、改めて教育の意味を考えました。

- プログラムに参加した高校生の発表を聴いて感じたことを教えてください。

ひとりひとりの観点がいい意味で異なっていて興味深かったです。地域連携から海外研修までさまざまなテーマでの活動発表でしたが、それらがつながっていくんですね。本当に多くのことを学ばさせていただきました。

- 5月には中部大学での帰国後報告もありましたが、大学生の中での発表はどうでしたか。

率直に大学生の研究が面白くて、ESDへの切り口に学部の特性が反映されていたので、新鮮な気持ちで発表を聴いていました。アプローチの仕方は違いますが、持続可能な未来へ向けて全員の気持ちは同じ方向を向いているのだということを強く感じました。大学生の人たちとの意見交換も楽しかったです。

- 今回の経験から、今後どのようなことをしたいと考えていますか。

私は大学では物質の研究をしていきたいと思っています。その際も、今回学んだ視点を研究に取り入れていきたいと思っています。ありがとうございました。

